

大学共育と平和学 ～学生が平和のための 学びの主人公になる(中)

愛媛大学法文学部 教授

和田 寿博



1963年兵庫県生まれ。日本平和学会会員。戦前戦後の企業経営を専攻し、戦争体験記録に取り組んでいる。学生の広島・沖縄・韓国・中国・台湾などでの平和友好の旅を支援している。

※大学共育と平和学～学生が平和のための学びの主人公になる(上)
<http://mjk.ac/dwZJas> (短縮 URL)

3. 平和学の授業でおじいちゃん、おばあちゃんの戦争体験を知る

私は平和学の知見を踏まえ、「おじいちゃん、おばあちゃんの戦争体験」を記録している。体験者は軍人・兵士、一般人(父母、兄弟姉妹、子ども等)、性別、年齢、居住地、国籍、民族など多様で、その体験も暮らし、戦場、戦闘、空襲、被爆、死亡・戦傷、被災、復興等多様だ。平和な人の人生は似ているが、戦争体験のある人の人生はそれぞれに違っている。生死にかかわる体験の中での怒り、嘆き、悲しみ…安堵や平安の願い。戦後70年の間、戦争体験を家族や知人にも話したことがない方が多かった。戦争体験

者は高齢であり、記録するには「時間がない」。学生は強い関心を持ち、真剣に聞き入り、感想を述べ「ありがとうございました」と感謝を申し上げるようになった。

大学職員も戦争体験を知る機会は少なくなっているため、あらためてその一部を平和学の授業にそって紹介したい。平和学の授業の第1回～第2回ではGHQ/SCAPの撮影した写真や映像、市民から提供を受けた写真・史料などを活用して、「松山・愛媛県の空襲・戦災」「愛媛大学も戦地だった」ことを伝える。受講生はほとんど初めて知る事実には驚き、関心を抱き、「知りたい、聞きたい」と感想を述べ、ここから平和のための学びの一步を踏み出す。

【愛媛県の空襲・戦災—松山・愛媛大学】

下の写真は、私と平和学の受講生らが取り組む戦争体験記録の活動などにより卒業生から提供されたもので、授業で活用している。現在の愛媛大学城北キャンパス(松山市文京町)は、戦前、陸軍松山第22連隊の練兵場であった。愛媛大学関係者ならば、後景の御幸山と軍馬に乗る上官の位置から、そこが城北キャンパスの中心地であることを理解し、兵士の戦闘訓練、中高生らの軍事教練に一樣に驚く。1945年7月26日の松山空襲の際には周辺の住



1944年当時の城北練兵場(現愛媛大学城北キャンパス)での戦闘訓練

<出所> 和田寿博・愛媛大学教授 提供

註: 左写真の後方は御幸山、裾野に護国神社鳥居が見える。
右写真の後方は松山高等商業学校(旧松山経済専門学校、現松山大学)

民が逃げ込み、草むらや練兵のための塹壕などに身をひそめて一夜を明かした。戦前この地が戦地であり、戦後は学舎となり、将来、どのように活用するかは、学生と国民に委ねられている。

第2次世界大戦、アジア・太平洋戦争末期の愛媛県での米軍による市街地・民間人への空襲・戦災は愛媛県全域に及んだ。1945年1月31日、八幡浜市保内の山中への2個の爆弾投下に始まり、3月18日の八幡浜、3月19日の長浜・西条・新居浜、さらに4月26日と8月6日の今治、5月10日と7月29日の宇和島、7月26日の松山の市街地への大規模空襲、そして8月14日の大洲市と松野町に最後の空襲などが記録されている。東京大空襲・戦災資料センターが地域紙の記録から集計した愛媛県の民間人の空襲被害者数(2014年11月末)は1,207人(全国26番目の多さ)、近年の県内での集計活動によるとこれ以上の数になる見込みである。

米軍は、1945年2月17日、米軍艦載機が松山海軍航空隊と基地に最初の空襲を行った。3月19日、四国沖の空母群から呉軍港攻撃に向かった米軍艦載機F6Fヘルキャット等160機に対し、松山海軍基地に拠点を置く343海軍航空隊の紫電・紫電改が松山沖で激しい戦闘を行い、海軍にとって最後の

戦果をあげた。5月4日、大型戦略爆撃機B29が松山海軍航空隊と基地に都合17機、70発の爆弾を投下し、軍関係者・予科練生69人が死亡、169人が負傷、近隣の住民民間人7人が死亡した。この頃から愛媛県では米軍の空襲は厳しさを増し、市街地の民間人を対象とした爆弾・焼夷弾による無差別爆撃が始まった。

7月26日、午後11時30分ごろB29の編隊が松山市の西方上空に達し、空襲を開始した。B29は松山城を中心に時計回りに旋回し焼夷弾896トン投下した。市街地の周辺部から火の手が上がり、わずか3～4時間で市街地の9割を焼失した。松山市の戦災は、被災面積4.79km²(全市面積87.81km²、被災比率5.4%)、被災戸数1万4,300戸(全市戸数2万6,000戸、被災比率55%)、被災人口6万2,200人(全市人口11万7,400人、被災比率53%)、死者251人(男117人、女134人)、行方不明8人、負傷者は数えきれないほどの被害であった。主な公共建築物はほとんど罹災し、石材やコンクリート製の県庁、市庁、裁判所、図書館、日本銀行、四国銀行などが焼け残った。

7月26日の松山空襲を体験した当時10代だった人は次のような体験を述べた。



松山市南部から見た県庁・中心市街地の戦災(松山市提供)



<松山空襲の体験を記録する>
空襲経験者は城北練兵場(現愛媛大学)近くの川に
多くの人が逃げ込んで一夜を明かしたことを語った

15歳だった女学校3年生の女性は、B29が「ゴロン、ゴロン」と不気味な音を出して飛来し、「ザー」という音を立てて焼夷弾が落ちてきたという。照明弾のためか、夜空に花火が上がるように見え、見とれながら石手川にそって東北に逃げた。

12歳だった国民学校6年生の男性は、北の大川に逃げ、川辺で一夜を過ごした。翌日、松山城の東にある自宅に戻ると全焼しており、救護施設になった近所の警察署では、小さな子どもが腕を負傷し、「痛いがあー、痛いがあー」と泣き叫んでいた。

10歳だった国民学校4年生の女性は、遺体の横たわる焦土は真っ黒で、熱いためにまともに歩けず、西南の神社へ水を求めて歩いた。「戦後65年、誰かに聞いてほしかった、吐き出したかった」と付け加えられた。

戦争体験の心境を十分に受け止めきれないが、何度か傾聴し理解を深める。

平和学受講生は松山・愛媛県の空襲・戦災の体験を聞き、次のような感想を述べている。

「愛媛大学が練兵場で兵士や生徒が軍事訓練をしていたことに驚いた。中高生や女性、子どもたちも銃剣を訓練したことは今では考えられない。」



＜松山空襲の体験を記録する＞
空襲経験者は城北練兵場（現愛媛大学）近くの救護施設で
大怪我をした子どもが「痛いがあー」と叫んでいたことを語った

「松山出身だが空襲のことを詳しく知らなかった。空襲後の写真に自分の家や学校があることを知って驚いた。地域の歴史としてもっと詳しく知りたい。」

「授業の後でおばあちゃんに戦争や空襲のことを始めて聞いた。子どもだったおばあちゃんが空襲で死んでいたら私はいないことに気づき感謝した。」

「なぜ戦争や空襲があったのかを知りたい。外国の空爆のことを身近に考えた。」

「平和があってこそ私たちが学び生きていけることを伝えたい。」

現代の学生、若い世代は戦争・空襲・戦災などに関心を持ち、もっと広く深く知りたいと考えるようだ。私はあらためて松山と愛媛県の戦争・空襲・戦災について次のように解説し、地域の歴史への探究を呼びかけている。

2017年は松山の近代史を代表する正岡子規・夏目漱石の生誕150年であった。1895年、日清戦争従軍記者をしていた子規は健康を崩し、松山中学に赴任していた漱石の誘いを受け、下宿先、愚陀仏庵に42日間住み込んで俳句の創作に励んだ。この俳句の革命の地である愚陀仏庵は松山空襲によって焼失し、現在、再建が望まれている。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の主人公、



愛媛大学（旧城北練兵場）の発掘調査で
戦闘訓練の際の塹壕跡が発見された

山空襲の体験等を記録した平和ビデオ制作、2014年以降、平和の語り部派遣事業（2016年度、13人登録、32小中学校に派遣）等を実施している。

近年、松山市では平和学受講生らも加わって、戦争・空襲・戦災を記録し、継承する取り組みが行われている。

- ① 2001年以降、松山市平和資料館をつくる会が7月に平和展を開催し、行政との懇談を重ね、松山市立平和資料館の設置を求めて市議会に請願した。全会派の同意がないことや市民の世論が高まっていないことなどを理由に採択に至っていない。
- ② 愛媛大学教員が戦争体験者を講師とする平和学の授業を開講し、学生・教員が戦争体験や戦跡の記録に取り組み、また高校生が戦争体験記録に取り組んでいる。
- ③ 2010年以降、平和学受講生らが7月26日の松山空襲の日に追悼行事や調査活動を実施し、「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」を伝える行事を開催している。
- ④ 2015年、松山えんたい壕を考える会が松山市内に現存する3基の掩体壕のうち1基を保存することを市議会に請願し、採択され、教育委員会が調査を行ってきた。2018年3月、市は審議会に市文化財指定を諮問、答申で認められ、市教育委員会は第2次世界大戦に関する市の初の指定文化財として指定した。

戦後73年を迎え、戦争・空襲・戦災などの体験者が少なくなっているが、戦争体験を語りたという方がおられる。戦争体験者や戦災にあった親・兄弟姉妹・関係者をもつ市民が戦争・空襲・戦災を記録し伝承している。愛媛大学平和学受講生や高校生は、学生・若者が戦争体験を「聞きたい 知りたい」と関心を持ち、「戦争の悲惨さ平和の大切さ」を継承したいと言動している。しかし、愛媛県には戦争・空襲・戦災および平和を研究・学習、教育ができる施設はない。戦争・空襲・戦災を記録し、平和を展望する取り組みは今もって重要である。

【紹介】 私と平和学受講生、元受講生、市民が取り組む行事を紹介します。全国からのご参加をお待ちしています。 *参照：<http://kushusensai.net/>

■第48回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会 プログラム(概要)

【日程】

①米軍資料の調査・活用に関する研究会

8月24日(金) 18:00～21:00 および8月25日(土) 9:00～12:00

②大会

8月25日(土) 13:00～17:30

12:00 開場 平和友好行事①

13:00 <開会式>

◆紹介 出席者ならびに愛媛県在住の戦争・空襲・戦災の体験者

◆挨拶 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議代表幹事 今村修

松山大会実行委員長 和田寿博

来賓挨拶

祝電・メッセージ紹介・児童朗読

13:30 <記念講演>「松山・瀬戸内地域の空襲・戦災と博学連携」

講師；平井誠（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）

14:30 <発表1>松山・愛媛・四国・瀬戸内の空襲・戦災の記録 * 6人

16:30 <発表2>四国と全国の空襲・戦災の記録 * 4人

18:00 <懇親会>

8月26日(日) 9:00～12:30

8:30 開場 平和友好行事②

9:00 <発表3>全国の空襲・戦災の記録 * 8人

11:30 <まとめ>

◆大会まとめと講評

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議事務局長 工藤洋三

◆幹事会報告

◆次期大会主催者挨拶

12:00 <閉会式>

◆挨拶

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会実行委員長 和田寿博

③戦跡・戦災見学会（松山・今治）

8月26日(日) 13:30～16:00

【会場】 愛媛大学城北キャンパス グリーンホールほか

【主催】 第48回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議松山大会実行委員会

【連絡先】 790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部社会科学講座

第48回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会実行委員会

E-mail: <kusenikikai.matsuyama.2018@gmail.com>

TEL: 089-927-9260 FAX: 089-927-8820